

農家の経営戦略の展開方向

第5回通常総会の終了後、東京農業大学副学長 国際食糧情報学部 門間敏幸教授を講師に迎えて記念講演をいただきました。門間教授は、農林水産省で26年間勤務した後、東京農業大学の教授に就任し、今年度から同大学の副学長になられた方です。あぶくま農学校「土の塾」で東京農業大学の学生を受け入れているのが縁で角田にたびたび来ていただいております。

今回は「これからの地域農業と農家の経営戦略のあり方」と題して、お話をいただきました。



様々な例を提示してこれからの経営戦略についての講演をされました。

都会へ直売所を設け、新規就農促進のシステムを持ち成功している群馬県JA甘楽富岡、徹底した品質重視主義により市場価格より二〜三倍高い価格で直売をしている茨城県つくば市「みずほ」、年間売上げ二十億円の直売所和歌山県JA紀の里「めつけもん市場」など地域を基本とした農業の成功例を紹介していただきました。

次に、従来の専業農家の枠を超えた経営展開を行い、明確な経営理念を持つようになった農産、「鶏がかわいそう」という子供の言葉からゲージ飼いをやめ自然循環農法をし、卵の輸出まで手がける黒富士農場、市場交渉力を持つ綿密なビジネス戦略を立て経営をする田辺正宣氏、白菜のフランチャイズ化に挑戦する岩瀬一雄氏などのユニークな農業経営が紹介されました。

また、農業振興公社総会を傍聴され「この予算でこれだけの活動と仕事ができることは素晴らしい」成果は収益ということでは表すことはできないが、心の蓄積や角田に住むことの自信と誇りと充足感につながるのではないかといいことでした。

現在は資源循環農業をどうしたらブランド化できるか研究しているとのこととです。

最後に、世界で最も厳しい消費者の目の中で販売されている日本の農産物を輸出することについても考えていくことが必要だという話を伺いました。



一月十八日〜一月二十五日まで、風の塾によるフランス武者修行が行われました。

これは、風の塾3年目の卒塾にあたる事業として塾生自らがミーティングを繰り返し計画したものの。

参加した塾生は六人。農業振興公社顧問小松塾長とともにフランスのブルゴーニュ地方やリヨン市などを視察研修し、フランスの現場の農業や農家レストラン、農家民泊、教育農園などを視察研修しました。

フランス農業はこれからの日本農業の進む方向を示しており、これから農業をしていく上で大変参考になる武者修行でした。

あぶくま農学校「風の塾」武者修行そして卒塾へ



三月十一日、あぶくま農学校「風の塾」卒塾フォーラムが開催されました。

当日は、平成十三年度に始まった「風の塾」の3年間の活動の成果を振り返る形で塾生一人一人が報告をしました。

報告の後、「フランス農政に見るこれからの日本」と題し、東北大学大学院講師の石井圭一氏から記念講演が行われました。

農業振興公社顧問小松光一塾長から風の塾の三年間について総括をした後、あぶくま農学校校長佐藤清吉理事長より、塾生に対し、卒塾証書の授与が行われました。